

子どものためのクラシックコンサート(10/17)

掲載が遅くなりましたが、10月17日に、東京アーティスト合奏団の方に来校いただき開催した「子どものためのクラシックコンサート」の様子をお伝えします。

今回のコンサートは、一般財団法人三重県公立学校職員互助会の主催によるコンサートで、今年は、伊賀市と名張市の学校のうち12校で開催されました。

「東京アーティスト合奏団」は、1979年に結成された合奏団で、「子どもの頃からクラシック音楽に親しめる環境をつくりたい」「次世代を担う子どもたちの情操を育ていきたい」という願いのもと、全国の自治体や県教育委員会と提携し、年に100公演、通算2000回以上の演奏会を行っています。

コンサートは2部制で、第1部では、子どもたちも聞いたことのあるクラシックの曲の演奏を聞かせてもらいました。その後、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスといった弦楽器、フルート、オーボエといった木管楽器、そして、ハープ、打楽器といった楽器の紹介とそれぞれの音色にあった曲の演奏を聞かせてもらいました。ハープの美しい音色には、みんな聞き入っていました。

第2部では、歌のおねえさんの平川めぐみさんが、ディズニーメロデーやピリブなど、子どもたちに馴染みのある歌を歌ってくれました。♪あの青い空のように♪や♪手のひらを太陽に♪では、身振り手話などを交えながら、歌のおねえさんと一緒に、歌って楽しみました。その後、先生たちも参加した♪ドレミのうた♪で盛り上がりしました。途中、代表の子どもが実際にハープを演奏させてもらいました。演奏を終えた代表の子どもは、「指が痛かった。」と言っていました。

さくら会の役員さんからお礼の言葉を言ったあと、最後にみんなで♪にじ♪を歌って楽しいコンサートを閉じました。

本物を体験することの素晴らしさを感じた1時間半でした。



2年生「にじいろ学級」について勉強しました(10/23)

本校にも外国にルーツをもつ子どもたちがたくさん在籍しています。そうした子どもたちの中には、日本で生まれた子どももいれば、母国で生まれ、その後日本に来た子どももいます。

多くの子どもたちは、友だちと話をするなど、日常生活をおくる上では大きな問題はないように見えますが、文章は読めても、その内容までは理解できていない、先生からの指示など、言われていることが理解できていないなど、困難を感じている子どもたちが多くいます。

そこで、今年から、そうした子どもたちの日本語の習得と学習内容の定着を図ることを目的に、「にじいろ教室」を設け、個々の課題に応じた個別学習が行える時間を確保するようにしています。

ただ、「にじいろ教室がどうして必要なのか」、「どんな勉強をしているのか」について理解していない子どもたちも多くいます。

そこで、今回は、2年生の子どもたちが、にじいろ教室の担当の先生と、「にじいろ教室」について学習しました。

これからも、互いの文化を知り合う学習の機会をもつことで、多文化共生社会を担っていく子どもたちを育成していきたいと考えています。

1年生 手作りの「みのむし」が冬支度を始めました(10/17)

1年生の図工では、トイレットペーパーの芯に、小判形に切った新聞紙や色紙を貼り重ね、そこに目などをつけ、ぶら下げるようにした「みのむし」を作りました。最後につける目によって、いろいろな表情の「みのむし」ができました。1年生前の廊下が、一気に秋めいた感じになりました。

